

# ①チヨイ投げスタイル

砂地の港内やサーフに見られるカケアガリなどのポイントが投点 30 ㍍以内にあるなら短めの竿を用いたチヨイ投げでも十分に楽しめます。タックルの取り回しのよさを生かしてテンポよく探り、数をのばしましょう!!

2 ㍍前後のルアーロッドをはじめとするコンパクトロッド  
エンジン用やブラックバス釣り用などのルアーロッドをはじめとする、10号程度のオモリを無理なく投げられる胸がしっくりとした2㍍前後のコンパクトなロッドであれば種類は問いません。  
強く感じる事ができます。



## 小型スピニングリール

道糸が100㍍程度巻けるサイズのリールであれば何でも構いません。竿と同様に軽い方が有利です。

## ハリス：フロコ0.8～1.5号50㍍前後

素材は根ズレに強く、カラミを抑えられる適度な張りがあるフロコが一般的です。アベレージといえる20㍍前後のキスを想定すると、号数は0.8～1.5号が標準です。細いほど食い込みアップが期待できますが、数が釣れるときは耐久性を重視して太めとするのがおすすめです（細いほどハリを飲まれたときにパーマしやすい）。

道糸と天秤は  
クリンチノットなどで接続

※中通しオモリを使用する場合はサルカンをセット（両端ともにクリンチノットで接続）。

## オモリ：固定式のL型天秤オモリ、中通しオモリ3～5号

仕掛けがからみにくく、遠投がきく固定式の天秤タイプを使用するのがベターです。自重のある天秤にハリスを繋ぐことからアタリが鈍化したり、キスが違和感を覚えて餌を放しやすという欠点がある反面、アーム部の反発力によるハリ掛かりの促進（向こう合わせ）が期待できるというメリットがあります。より手軽さを求めるなら中通しオモリを使うシンプルなスタイルでも構いません。ウエートは重いほど飛距離を稼ぎやすく、軽いほど食い込みがよいという特性があります。キスのつき場や活性に応じて3～5号を使い分けましょう。なお、近ごろはチヨイ投げ専用の天秤オモリも多く市販されています。中には根掛かりの低減が期待できる浮力を持たせたオモリを備えたアイテムもあります。これらを活用するのもいいでしょう。

ハリスとハリは  
外掛け結びで接続

## ハリ：キスバリ7～9号

キスの小さな口に吸い込ませられる細長い形状の専用バリがおすすめです。サイズは小さいほど食い込みはよいですが、釣るたびに飲まれるようでは手返しが上がりません。食い込みと飲まれ具合の兼ね合いを考えて大きさを選びましょう。形状は、フトコロが深くてキープ力が高いキツネ型と、ハリ先が外を向いているぶん掛かりが早い袖型に大きくわけられます。どちらが適しているかはキスの活性によって異なります。両方を持参し、そのときの釣れ具合でセレクトしましょう。多バリ仕掛けを扱えるほど竿が長くないため、仕掛けは1～2本バリが基本です。2本バリで数を求めるのもいいですし、トラブルの少ない1本バリでアタリを掛け合わせるのもおもしろいものです。こちらについては好みで選べばよいでしょう。